

Y16b 木村榮記念館サイトにおける緯度観測所ガラス乾板写真の公開

馬場幸栄（一橋大学）

国立天文台の前身のひとつである緯度観測所が岩手県水沢で地球の緯度観測を始めたのは明治32（1899）年のことであり、平成31（2019）年は緯度観測120周年という節目の年にあたる。これを記念して、報告者が緯度観測所のガラス乾板から復元した写真の一部を、国立天文台水沢VLBI観測所が運営する木村榮記念館ウェブサイトで公開することとなった。写真はJPEGファイルで公開され、被写体・撮影場所・撮影時期などの情報が添えられる。被写体は、まだ「臨時緯度観測所」と呼ばれていた時代の木造事務所（明治33（1900）年竣工）や緯度観測所時代の木造本館（大正10（1921）年竣工）、眼視天頂儀室（明治32（1899）年竣工）、浮遊天頂儀室（昭和13（1939）年竣工）、眼視天頂儀（明治32（1899）年設置）、浮遊天頂儀（昭和14（1939）年設置）等の観測施設・観測器機や、緯度観測所初代所長・木村榮や所員たち等の人物を含む。ガラス乾板の大半にはキャプションが付いていなかったため、写真にうつっている人物や撮影場所の特定および撮影時期の絞り込みは容易ではなく、まだまだ不明の部分もある。しかし、聴き取り調査にご協力くださった緯度観測所元所員やそのご家族、また、関連史料を閲覧させてくださった国立天文台水沢VLBI観測所図書室のおかげで、それらが少しずつ解明されてきた。